

み の か も
ここ美濃加茂は

しょうよう

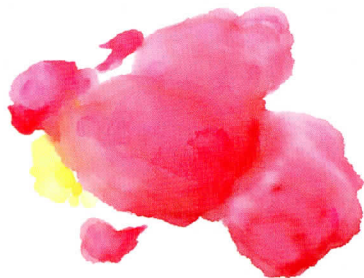
逍遙のふるさとです。



幕末の動乱期、尾張藩太田代官所の役人の子として生まれた
坪内逍遙つぼうち しょうよう(1859～1935)。美濃加茂のまちは、逍遙の幼少
時代をやさしく包んでいました。遠く故郷を離れても、美濃加茂
をこよなく愛した逍遙。今もまちの隅々に逍遙の思いが息づい
ています。

逍遙が美濃加茂で過ごしたのはわずか10年の間です。しかし
本や絵を描くことを愛し「未(ひつじ)生まれの紙食い虫」と呼ば
れた幼き日々が、逍遙の原点を育んだのです。

訪ねてみませんか。
逍遙が生まれ、
そして晩年まで思いを
馳せたこのまちを。



明治・大正・昭和期の文壇を駆け抜けた坪内逍遙。常に新しいものへの欲求が、文学、教育、演劇などあらゆる分野の研究につながりました。



幼いころ

旧尾張藩太田代官所に勤めていた士族の平右衛門と母ミチの間に、10番目の末子として生まれました(幼名勇蔵、のちに雄蔵)。読み書きや武術・文芸などの素養は家族から教わっています。明治2年(1869)、逍遙10歳の時に一家は名古屋郊外へ移住しました。

出発点

上京後、文学を芸術として位置づけたいと考えた逍遙は、多くの文学者に影響を与えた『小説神髓』や『当世書生気質』を著しました。またイギリスの劇作家/ウィリアム・シェイクスピアの全作品を初めて日本語に訳しました。

演劇

逍遙は演劇の改良にも取り組みました。新史劇の創作のため史実を題材に『桐一葉』など多くの戯曲を書き上げました。同時に演劇研究のための朗読会を開催、俳優の養成のために文芸協会の主宰もつとめました。

教育

東京専門学校(現早稲田大学)文学科で、英文学史やシェイクスピアなどの授業を担当。早稲田中学校の設立にも参加、教科書の執筆も行いました。



大正4年(1915年)、逍遙が蜂屋小学校のために校歌を作詞しました。(写真は蜂屋小学校の校庭にある校歌の碑)



① 逍遙公園

逍遙が生まれた太田代官所跡地近くにある逍遙公園。園内には、逍遙の顕彰碑が建っています。



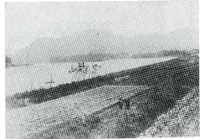
② 虚空蔵堂のムクノキ

逍遙幼い日の記憶に残るムクノキ。晩年帰郷した逍遙は、この前でゆかりの人々と記念写真を撮りました。



③ 木曾川河畔

木曾川のほとりで逍遙は幼少期を過ごしました。滔々と流れる川の景色は今も変わりません。帰郷した時、知人・林一郎(1953~1926)と河畔を散策しました。



④ 逍遙の姉「錠」の墓

太田町の蔵之内墓地には、逍遙の一つ上の姉、坪内錠(戒名「妙教嬰女」)が静かに眠っています。



⑤ 祐泉寺・逍遙の歌碑

木曾川を望む古刹・祐泉寺。晩年、逍遙が故郷への思いを詠んだ二首の歌を歌碑にしています。



すずきまきさけるを聞れば
こころを幼きときも
神の代をおもふ
この木の美ふりして事し
こゝのぼれて山嶺はな
ごころにかたし

⑥ 美濃太田駅前 逍遙の胸像

美濃太田駅南口前の坪内逍遙。威厳の中にも暖かいまなざしで、今のまちを見守っています。



坪内逍遙年譜

1859 (安政6年)	0歳	5月22日、美濃国加茂郡太田村(美濃加茂市太田本町)の尾張藩代官所役宅に生まれる。幼名勇蔵、後に雄蔵と改名。	1902 (明治35年)	43歳	早稲田中学校長に就任する。
1869 (明治2年)	10歳	一家を挙げて名古屋西郊外の上笹島村(現中村区)に移住する。貸本屋に通い芝居を見る。	1906 (明治39年)	47歳	文芸協会の創設に参画し、以後「桐一葉」「ベニスの商人」歌劇「常闇」を上演する。
1872 (明治5年)	13歳	名古屋洋学校に入学する。	1909 (明治42年)	50歳	文芸協会演劇研究所を開設する。
1876 (明治9年)	17歳	愛知英語学校卒業後、県選抜生として、東京開成学校(東京大学の前身)に入学する。	1911 (明治44年)	52歳	文芸協会改組、会長となり、第1回公演「ハムレット」を上演。
1878 (明治11年)	19歳	大学本科(文学部政治学科)に進む。	1912 (明治45年)	53歳	7月、43年ぶりに故郷太田を訪問する。
1883 (明治16年)	24歳	東京大学卒業後、東京専門学校(早稲田大学の前身)の講師となる。	1915 (大正4年)	56歳	早稲田大学教授辞任。
1885 (明治18年)	26歳	『当世書生氣質』、『小説神髓』を刊行する。	1919 (大正8年)	60歳	5月、妻センを同行して故郷太田を訪問する。
1886 (明治19年)	27歳	鴉飼常親の養女センと結婚する。	1920 (大正9年)	61歳	熱海に別荘「双柿舎」落成。
1891 (明治24年)	32歳	『早稲田文学』を創刊する。	1926 (大正15年)	67歳	『逍遙選集』第1回配本。
1896 (明治29年)	37歳	早稲田中学の創立にたずさわり、教頭となる。この頃、演劇の革新を志し、戯曲「桐一葉」等を発表。	1928 (昭和3年)	69歳	逍遙を記念する演劇博物館、早稲田大学に開館。『シェークスピア全集』完成。
1899 (明治32年)	40歳	文学博士の学位を受ける。	1933 (昭和8年)	74歳	『新修シェークスピア全集』第1回配本。
1900 (明治33年)	41歳	尋常小学校用『国語読本』全8巻などを刊行する。	1935 (昭和10年)	75歳	2月28日逝去。法名「雙柿院始終逍遙居士」。早稲田大学学園葬が行われ、熱海の海蔵寺に埋葬される。

逍遙について紹介しています

国登録有形文化財 吉田家住宅主屋(旧小松屋)

屋号は「小松屋」。旧中山道太田宿沿いにおいて、江戸時代の旅籠の佇まいを今日に伝える数少ない貴重な建物です。現在は町並み探訪案内の施設として開放されています。

平成26年12月、国登録有形文化財に登録。

開館時間 8:30~16:00

休館日 火曜日

問合せ先 太田宿草鞋の会

美濃加茂市民ミュージアム(みのかも文化の森)

約9ヘクタールの森に囲まれた博物館。平成12年に開館し、この地域の歴史、民俗、美術、自然、人物を紹介する展示のほか、体験講座、朗読や演劇に関わる催し等も開催しています。

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日(ただし祝日の場合は開館し直後の平日が休館)、年末年始は休館

問合せ先 TEL:0574-28-1110

編集・発行

美濃加茂市民ミュージアム(美濃加茂市文化振興課)

〒505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1 TEL:0574-28-1110

HP:<http://www.forest.minokamo.gifu.jp>

製作・デザイン

Studio Riverbed

2017年3月発行

